

財団法人水島地域環境再生財団 2009年度(平成21年度)事業報告書

財団法人水島地域環境再生財団の2009年度(平成21年度)事業計画は、持続可能な組織運営をめざす、事業実施から得られる効果を最大限引き出す、活動に参加してくれる人を増やす、認定公益法人移行をめざした整備をおこなうという、以上4点を基本として組み立て、事業を行った。

1 地域再生

公害地域の再生にむけ、「地域の研究機関」として研究をおこなうとともに、共に協働して事業がおこなえる地域の人材養成・ネットワーク形成のための「支援組織」としての役割をも担う。(中長期計画目標)

1. 地域の研究機関としての役割

水島地域を中心として、岡山県内を拠点とする地域の研究機関としての役割を担う。「水島のまちづくり」「公害・地球環境」「高梁川・瀬戸内海の環境再生」「コンビナート研究」を大きなテーマとして、新たな課題の発掘やその解決にむけた調査研究、提言、解決にむけた体制作りなどをおこなう。(中長期計画目標)

既存の調査を継続的に行い、データの蓄積をおこなった。

* 八間川調査

- 1999年から続く年4回の調査を継続実施したことで、長期的な八間川の変化を捉え、今後の水辺空間を活用したまちづくりの基礎データとしてより精度の高い教材として修正完成することができた。富士フィルムの助成事業で実施したこの取組が評価され、活動奨励賞を受賞した。
- 教材は水島地域内小中学校に無料配布した。新聞に記事として掲載されたことから、一般市民からの反響も高かった。

* 海底ゴミ調査

- 官民パートナーシップ確立のための支援事業(内閣府)

寄島里海創生協議会が受託した事業の事務局を担い、以下業務を企画運営した。

寄島町漁業協同組合の協力のもと、引き続き海底ゴミ実態把握調査を継続した。調査を続けることで、海底ゴミ回収の効果等を定量的に把握し、海底ゴミ処理体制の検討を行った。

2009年9月5日 体験学習リーダー養成講座

9月13日 「海辺の生きもの」に会いに行こう!」体験学習会

10月18日 海辺に生える植物観察会

11月8日 漁業体験&海底ゴミ調査ツアー

- ・ (財)環日本海環境協力センターの委託による海岸漂着物調査、オリーブ基金、環
 - ・ 瀬戸内海会議など他団体との連携による瀬戸内海の環境再生に向けた調査も継続して行った。
- * コンビナート研究
- ・ 資料保存の取組と連動し、水島コンビナート等に関する研究資料等を収集した。
 - ・ 事務局を中心に研究資料を読む「昼読会」を実施し、資料を共有した。

2. 人と人、組織と組織をつなぐ支援組織

共に協働して事業がおこなえる地域の人材養成をおこなうとともに、地域にある組織(企業や行政も含む)・個人の強みをそれぞれ活かし、それをかみ合わせ、つないでいく役割を担う。(中長期計画目標)

講座の開催や各種イベント、会議等の出席を通じ、人のネットワークを構築していく

- * 講座の開催
- ・ 月に一度集まっている倉敷環境市民会議(エコらぼ倉敷)は、関心ある市民の学びあい・情報交流の場としての位置づけとなった。また、環境月間6月に行政の担当部課と懇談をおこなう「環境月間における倉敷市との懇談会」を定期開催するための話し合いも行い、実施した。
環境月間における倉敷市との懇談会 2009年6月30日
- * 水島地域のまちづくりに関するネットワーク化とイベント開催
- ・ 水島おかみさん会等の団体や行政、大学などと連携しながら、水島港まつりへの協力など地域再生に向けたまちづくり活動を引き続き行った。地域との連携を強化しながら、水島のまちづくりに関するネットワーク化のコーディネートに努めた。
 - ・ 地域と大学との連携をコーディネートしながら事業を実施し、調査研究、交流イベント(水島アートフェスティバルなど)の開催、地域資源の掘り起こし・ネットワーク化、地域情報の発信(マップづくり)などに取り組み、これらを通じて水島のまちづくりの実施体制の構築に努めた。
- * 他団体等との連携
- ・ 倉敷市環境審議会や倉敷市が行う地球温暖化防止活動実行計画や倉敷市第6次総合計画策定に関し市民参加をすすめるよう働きかけ等をおこなった。みずしま財団職員が公募委員として計画策定に関わり、倉敷市内におけるネットワークを広げた。
 - ・ 倉敷市内を中心とした市民活動の中間支援をすすめるために、倉敷パートナーシッ

ブ推進ひろばの事業に協力した。

2009年市民活動パワーアップ研究会

2009年サポセン体験プロジェクト(9月3日、10月4日、11月16日、
2010年1月8日)

2 公害経験の継承と被害者支援

水島地域でおきた大気汚染公害の経験を伝えていき、同じ過ちを繰り返さない国内外に情報発信をおこなっていく。

また、高齢化している公害患者のQOL向上にむけ、調査研究および実践をおこなっていく。

(中長期計画目標)

倉敷医療生活協同組合との連携および公害死亡患者遡及調査の活用

- * 公害死亡患者の剖検例のまとめと、遡及調査報告書の普及
 - ・ 倉敷医療生活協同組合の医師らと連携し、公害死亡患者の剖検例についてまとめ、公害患者の病態を正確に把握し、生存者への治療やリハビリテーション分野での活用をすすめた。また、これらのまとめを夢&環境基金の助成金によりパンフレットを作成し、全国の大学・研究機関等に配布することにより、「公害患者遡及調査」報告書を普及する事業を引き続き行っている。

- * 国内外への情報発信
 - ・ 全国公害患者の会連合会および、各地のまちづくり団体と連携し、国内外へ公害地域の環境再生・まちづくりに関する情報発信をおこなった。
 - 2009年11月20,21日 第9回アジア・太平洋NGO環境会議(APNEC-9) 展示
 - 2009年11月22,23日 第27回日本環境会議尼崎大会 展示、交流会開催協力、運営事務局補助

- * 地域連携による包括的呼吸リハビリテーションの推進
 - ・ 公害患者のQOL・ADLの向上および呼吸器疾患の患者の掘り起こしを含め、地域連携による包括的呼吸リハビリテーションを、水島協同病院および(財)公害地域再生センターと協力し、実施した。
 - 2010年3月9日 呼吸器リハビリテーション講演会 公害患者、市民37名参加
 - 2010年3月9日 地域での包括的呼吸ケアの実践報告 医療従事者43名参加

- * 和解成立日記念コンサートの開催
 - ・ 公害患者のQOL・ADLの維持向上に寄与するため毎年12月におこなっている、和解成立日記念コンサートを行った。

2009年12月23日 講師：松岡健一氏（水島協同病院名誉院長）

コンサート：倉敷管弦楽団弦楽四重奏

3 公害環境学習

地域の現状に即した内容での講座開催をおこなうとともに、地域の資源を活用した公害・環境学習をおこなっていく。これらは、収益事業として行うと同時に、調査研究を地域へ還元するということも念頭におき実施する。

（中長期計画目標）

既存プログラムの活用と海辺の環境学習の充実

* 講師派遣の推進

- ・ 専門性を活かした研究員の講師派遣を積極的すすめ、そのための基盤作りを検討した。

講師派遣 14 件

2009年4月：2日新見ライオンズクラブ（海底ゴミ）、4日倉敷医療生協新人研修、21日児島公民館（フードマイレージ講座）

同7月：18日 児島 JC（海底ゴミ）

同8月：9日 オリーブ基金（海底ゴミ）、20日 備中県民局（海底ゴミ）

同10月：6日 倉敷南高校、23日 倉敷高校

2010年1月：14日 岡山市自治研究集会分科会運営会議、17日 サステナビリティシンポジウム

同2月：3日 環境学習協働推進広場全体会議（フードマイレージ講座）、14日 STOP 温暖化防止（フードマイレージ講座）、21日 岡山市自治研究集会（フードマイレージ講座）27日 アマモシンポジウム、

同3月：8日 矢掛高校

* 既存のプログラムの整理・活用

- ・ フードマイレージ買い物ゲームや、地球温暖化問題など既存のプログラムを整理するとともに、パッケージ化し、利用しやすい形態や情報発信の方法を検討した。

* 海辺の環境学習の推進と体制の充実

- ・ 海辺の環境学習については、特に公害・環境学習の中心を担えるよう、人材育成および安全性確保など充実をはかり、受け入れ体制について検討し実施した。

2009年10月24日 海辺の自然学校業務（国土交通省宇野港湾事務所）

* エコツアーの受け入れ

- ・ 大学や行政等からの視察の受入を地域と連携ととりながら実施した。
吉備国際大学 2009年11月28日
川崎医科大学 2009年6月3日、9月2日、9月30日、10月13日、11月4日
水島コンビナート環境体験ツアー（備中県民局委託事業）
新見市立西方小学校 2009年10月29日、
新見市立萬歳小学校、同上市小学校 2009年11月26日

4 情報発信と収集

地域の情報コーナーとしての役割を担うためにも，常日頃から情報の収集と発信につとめていく。（中長期計画目標）

共感の得られる情報発信と図書資料の整理活用

* 「情報発信・広報強化事業」

みずしま財団の事業や活動について、わかりやすく、効果的に、共感を持って、参加してもらえる広報戦略を検討した。

具体的には、「地元メディアを活用した情報発信」（FMくらしき、KCT）等、「みずしま財団たよりの発行と配布先の重点化」、「HPの充実・および、外国語版への着手」の紙媒体，電子媒体，地域のメディアとの連携の3つをバランスよく活用する方法を検討した。

来年度も引き続き広報活動の集約化をおこない、効果的な広報をめざした。

* 「「公害環境問題・水島・まちづくり」情報の収集・充実事業」

「公害環境問題・水島・まちづくり」に関する情報を引き続き収集し、提供できるよう体制を整えることをめざし、設立10周年記念イベントの一環として資料室（図書資料の整理、情報提供コーナー・スペースの設置）を整備した。

組織運営について

5 外部とのかかわり

円滑な事業実施をおこなうために、また効果的な組織運営をおこなうために、みずしま財団以外の組織とも十分な関わりをもっていく必要がある。そのためには、企業、行政、大学・専門家、地域の教育機関、インターン・ボランティア、賛助会員、その他団体との連携を強化する。(中長期計画目標)

今年度は、賛助会員の協力をより多く得られるよう、働きかけた。個人会員ではより多くの人に共感してもらえよう、また団体・法人会員へは、環境面での取り組みの重要性を訴えることで賛助会員としての協力を増やす努力をした。

会費収入 前年度 892,000 円 今年度 1,066,000 円

インターン・ボランティアの、受け入れ体制の整備を引き続きおこなった。推進に当たってはボランティアセンター等既存の組織と連携を検討した。

6 組織基盤

事業実施・組織運営において、効果的に行うための内的要因としては、資金、組織・人材、施設・設備、経営・運営力の4つがあげられる。それぞれについて、自立した運営をするために工夫をおこなう。(中長期計画目標)

- ・ 組織基盤については、2009年度単年度黒字化の戦略の検討、獲得すべき事業の明確化を最優先課題として取り組むと共に、公益法人改革において、認定公益法人をめざし、昨年度設置した、組織検討委員会、事業検討委員会において、認定公益法人へむけた作業及び、事業の重点化と財務の健全化をめざした短期および中長期の戦略を検討した。
- ・ 財団設立10周年をむかえるにあたり、10年間を総括し、今後の10年の構想を構築できるよう議論をすすめ、それらを活かした記念行事をおこなった。

2010年3月28日 10周年記念イベント開催